

# 視覚障害者に関する

小学生の  
ための

## Q&A

視覚障害ってどんな障害？

歩くときは、どうするの？

親切にするには、どうしたらいいの？

点字はどこに行けば見られるの？

点字図書ってどんな本？

盲導犬ってどんな犬？      など…

茨城県立視覚障害者福祉センター



## もくじ

Q1 :	視覚障害とは、どのような障害ですか？.....	1
Q2 :	視覚障害は、生まれつきになってしまうものですか？.....	1
Q3 :	視覚障害者は、みんな何も見えないのですか？.....	2
Q4 :	全国／茨城県にはどれくらい視覚障害者がいますか？.....	2
Q5 :	視覚障害者は、毎日どのように生活をしているのですか？.....	3
Q6 :	道路などに敷いてある、黄色いゴツゴツしたものは何ですか？.....	4
Q7 :	視覚障害者は、歩くときどのようにするのですか？.....	5
Q8 :	視覚障害者が外出するとき白い杖を持つのはなぜですか？.....	6
Q9 :	視覚障害者が外出するとき、どんな場所が大変ですか？.....	7
Q10 :	視覚障害者が歩いているとき、親切にするには どのようにすればよいのですか？.....	8
Q11 :	視覚障害者がパソコンを使うって本当ですか？.....	9
Q12 :	視覚障害者は、どんなスポーツをするのですか？.....	11
Q13 :	点字はどのようにして生まれたのですか？.....	12
Q14 :	点字の便利なところ、不便なところは何ですか？.....	13
Q15 :	視覚障害者が点字を覚えるのには、 どのくらいの期間が必要ですか？.....	14
Q16 :	どのような場所に行けば点字を見ることが出来ますか？.....	15
Q17 :	点字図書館では、視覚障害者のために どんな工夫をしていますか？.....	16
Q18 :	点字図書館には、どのような本があるのですか？.....	17
Q19 :	点字図書には、挿絵などはあるのですか？.....	18
Q20 :	点字図書館に関係するボランティアには、 どのようなものがありますか？.....	19
Q21 :	盲導犬とは、どんな犬ですか？.....	20
Q22 :	盲導犬は、どんな犬が、 どこでどのように訓練されるのですか？.....	21



## Q1： 視覚障害とは、どのような障害ですか？

視覚障害とは、文字通り目（視覚）が不自由になることです。そのような状態の人たちを「視覚障害者」と呼びます。

視覚に障害を受けると、「情報を得ること」、例えばテレビを見たり、本を読んだりすることが難しくなります。また、周りの状況を見て確認することが難しくなるため、「移動すること」も困難になります。

逆に、（他の障害を持っていなければ）視覚以外の能力は使えるので、何らかの手段で視覚の障害をカバーできれば普通に生活できます。

## Q2： 視覚障害は、生まれつきになってしまうものですか？

必ずしもそうとは限りません。

視覚障害者は生まれつき見えない人ばかりではなく、途中で見えなくなった人もいます。原因は病気や事故などさまざまで、現在では途中で見えなくなった人の方が多いくらいです。

一般に、生まれつき見えない人を「先天性視覚障害者」、途中で見えなくなった人を「中途視覚障害者」と呼びます。

**Q3： 視覚障害者は、みんな何も見えないのですか？**

視覚障害者はみんな同じように見えないと思われがちですが、そうではありません。晴眼者（目に障害がない人）でも視力がいい人と悪い人がいるように、視覚障害者の見え方もさまざまです。大きく分けただけでも次のようになります。

- ◆ 全く見えない人
- ◆ 目を近づければ字が読める人
- ◆ 補助器具を使えば見える人
- ◆ 暗いところでは見えにくくなる人
- ◆ 明るいところでは見えにくくなる人
- ◆ 見える範囲が狭い人
- ◆ その他

これらのうち、「全く見えない人」以外の人を「弱視者」といいます。現在は、全く見えない人（全盲者）より弱視者の方が多くなっています。

**Q4： 全国／茨城県にはどれくらい視覚障害者がいますか？**

視覚障害者を含めて、体の機能に障害をもたれた方には、医師の診断と本人の申請に基づいて「身体障害者手帳」が交付されます。身体障害者手帳には、障害の程度によって1級から6級までの等級があり、

一般的に1級および2級の人が「重度障害者」と呼ばれます。

現在、視覚障害で身体障害者手帳の交付を受けている人の数は、全国で310,000人、茨城県内では6,499人となっています。これは身体障害者手帳交付者全体の約8%にあたります。（全国的人数は平成18年7月1日現在、茨城県的人数は平成18年3月31日現在）

該当する障害を持っていても、身体障害者手帳を持っていない、あるいは交付を申請していない人は、制度の上では「視覚障害者」とはなりません。このような人たちは、上的人数には含まれていません。

#### Q5： 視覚障害者は、毎日どのように生活をしているのですか？

生活は晴眼者と何ら変わりません。朝起きて、昼間は仕事や勉強をして、夜は寝ます。

Q1でも述べましたが、視覚障害者は「目が不自由になっただけ」の人です。目が不自由であるという「不便さ」はありますが、生活そのものが晴眼者と違ってしまふことはありません。

**Q6： 道路などに敷いてある、黄色いゴツゴツしたものは何ですか？**

一般には「点字ブロック」、正式には「視覚障害者誘導用ブロック」と呼ばれている、視覚障害者が歩くときの目印となるブロックです。

「点字ブロック」といっても、点字で言葉が書いてあるわけではありません。次の2種類のブロックが組み合わされています。

点状ブロック：危険な場所や分岐点、位置の表示などに使われます。交差点や、階段・入口の前などにあります。

線状ブロック：誘導用表示として使われます。「線の伸びている方向に進むことができる」という意味です。

視覚障害者は、このブロックを踏む、あるいは杖の先でたどるなどして歩きます。

以前はブロックの形が決められておらず、点状ブロックと線状ブロックが反対の意味で使われたということもありましたが、平成13年に『日本工業規格（JIS）』で上のように決められました。

ただし、視覚障害者が全員必ずこのブロックだけを頼りに歩いているわけではありません。目的地、歩きやすさなどによってブロックを利用する／しないを使い分けています。

また、点字ブロックがあれば万全というわけではありません。ブ



ロックの上に自転車などの障害物が置かれると、頼りになるはずの点字ブロックが、逆に「障害物にぶつかるよう誘導する」という危険なものになってしまいます。

### Q7： 視覚障害者は、歩くときどのようにするのですか？

晴眼者が歩くときは、周りの風景や人の流れなど、目に映る情報（視覚情報）で状況のほとんどを判断します。視覚情報は、人間が得られる情報のおよそ8割を占めているといわれています。

この視覚情報を得ることができない視覚障害者は、これらの代わりとなる情報を総動員して歩かなければなりません。例えば、次のような感じですよ。

自分の左側を車が走っている音が聞こえる。何台も続けて聞こえるから、交通量は結構多い。まえから人の近づいている足音が聞こえる。右側で自動ドアの開く音が聞こえた。かすかにコーヒーにおいがするから、いつも通る喫茶店だろう。ならばあと20歩くらいで交差点だ……。

目で見ることができればすぐにわかるこれらの情報を得るために、視覚障害者は常に頭の中で考え、整理し続ける必要があるのです。

**Q8： 視覚障害者が外出するとき白い杖を持つのはなぜですか？**

自分の前で左右に振ることで、前のほうにある障害物を探るためです。

Q7で述べたように、視覚障害者が歩くときは、視覚の代わりとなる全ての能力を使います。

そして、物に触ったときの感覚（触覚）を視覚の代わりに使うための道具が白い杖です。訓練次第で、杖に当たったときの感触で当たったものの材質などを判断したり、杖の先端の動きで段差を発見したりもできます。

また、白い杖は視覚障害者のシンボルでもあります。白い杖を持っていれば、周りの人たちや自動車が気づきやすくなりますし、手助けもしやすくなります。

杖の色が白いのは、交通ルールを定めた『道路交通法』および『道路交通法施行令』という法律で、杖の色が「白または黄色」と定められているためです。

**Q9： 視覚障害者が外出するとき、どんな場所が大変ですか？**

視覚障害者が一人で歩くときに「大変な場所」となるのは、主に次のようなところでは。

**◎一度も歩いたことのない場所**

視覚障害者は、周りの音や白い杖に当たるものを目印に歩きます。

これらの目印は、「それが何であるか」「その目印の場所からどう進めばいいか」をあらかじめ確認しておかなければ意味がありません。そのため、一度も歩いたことのない場所をいきなり歩くのは非常に難しくなります。

**◎周りの状態がよく変わる場所**

以前「目印」にした物が、次に来たときに無くなっていたら、その場所は視覚障害者にとっては「一度も歩いたことのない場所」と同じになってしまいます。

**◎駅のホーム**

「ホームと線路の間に柵がない」「視覚障害者が落ちたら、自分の力だけで抜け出すことは非常に難しい」というように、視覚障害者にとって駅のホームはとても危険な場所のひとつです。実際に、これまでも多くの視覚障害者が転落事故にあっています。

## Q10： 視覚障害者が歩いているとき、親切にするには

どうしたらいいですか？

少し詳しくお答えします。視覚障害者に対して間違った理解をしている人が意外に多いからです。

例えば、次のようなことが視覚障害者からよく聞かれます。

- 1.いきなり後ろから押された、または手をつかんで引っ張られた。
- 2.点字ブロックの横を歩いていたら、いきなりブロックの上に押し戻された。
- 3.横断歩道が無い道路を音で確認しながら渡ろうとしたら、いきなり道の端に引き戻された。

これらは、視覚障害者への接し方としては問題があります。理由はそれぞれ次の通りです。

- 1.皆さんは、自分の見えない方向からいきなり体を引っ張られたら驚きませんか？
- 2.皆さんは、「ここは安全だ」と言われた場所があったら**絶対に**そこしか歩きませんか？
- 3.皆さんは、横断歩道の無い道路を**絶対に**渡りませんか？

実際には、一人で歩いている視覚障害者は、（人によって差はあり

ますが)一人で歩けるくらいの視力はある、または一人で歩けるよう訓練を受けている場合がほとんどです。

「手助けが必要かな」と思ったら、次のようにします。

- 1.まず、声をかける。いきなり杖や体にさわらない。
- 2.相手が何を望んでいるかを、相手に聞いて確認する。自分で勝手に判断しない。
- 3.助けを必要としなかった時は、そのまま見守る。無理に手出しはしない。

また、「点字ブロックの上に自転車などを置かない」「点字ブロックの上で立ち話などをしない」、さらにはそのような人がいたら注意することなども「親切な行為」に違いありません。

「危険な状態にある視覚障害者を助ける」ことは確かに大事ですが、それよりも「周りの人たちが、視覚障害者にとって危険な状態を作らないようにしておく」ことの方がもっと大事です。

### Q11： 視覚障害者がパソコンを使うって本当ですか？

本当です。

最近、視覚障害者がパソコンを使うための支援ソフトが充実してきたため、多くの視覚障害者がパソコンで情報を得る、または伝えるこ

とができるようになりました。

主なソフトとしては、次のようなものがあります。

### ◎画面読み上げソフト

パソコンの画面に表示されている文字を自動的に読み上げる。  
範囲を指定して読ませることもできる。

### ◎音声ワードプロセッサ

キーボードから入力した内容を読み上げることで、文章を確認しながら入力できる。また、入力するときに点字と同じように6つの点で打てるものもある。

### ◎インターネットブラウザ、メールソフト

音声ワードプロセッサと同じように、画面や入力した文字を読み上げることで、インターネットのホームページを読んだり、メールのやり取りをしたりできる。

ただし、これらのソフトを使ったとしても、視覚障害者がいきなりパソコンを使えるようになるわけではありません。キーボードの配置や操作手順を覚えるまでは、やはり晴眼者の手助けが必要になります。

この手助けを行う「障害者パソコンボランティア」もあります。パソコンボランティアが増えることで、より多くの視覚障害者がパソコンを扱えるようになると思われます。

## Q12： 視覚障害者は、どんなスポーツをするのですか？

主に次のようなものがあります。

### ◎球技（野球・バレー・卓球・サッカーなど）

ボールを転がして、その音を頼りに打つ。ボールを投げるときや走るときなどは、拍手などで方向を教える。

### ◎陸上競技（短距離走・長距離走など）

ゴールの方向で鳴らす音を頼りに走る。または、目の見える伴走者が持っているひもをにぎって走る。

### ◎水泳

ゴールの方向で鳴らす音を頼りに泳ぐ。

### ◎射撃

弾丸の代わりにビーム光線を使う。狙いは、特殊なセンサーが鳴らす音で判断する。

### ◎柔道

あらかじめお互いの体にさわって位置を確かめ、手を下ろした上体から試合を始める。その他は普通の柔道とほぼ同じ。

これらの競技は、「全国障害者スポーツ大会」や「パラリンピック」(障害者のオリンピック)などでも行われています。2000年に行われたシドニーパラリンピックでは、水泳で日本の視覚障害者が金メダルを獲りました。

### Q13: 点字はどのようにして生まれたのですか？

昔から、視覚障害者のために普通の文字(「墨字」と呼びます。)を立体化して書くなどの方法が考えられてきました。しかし、この立体文字は細かい部分が読みづらいことから読み間違いが多く、また視覚障害者自身が文字を書くということが極めて難しいものでした。

1825年に、世界最初の盲学校である「パリ訓盲院」の生徒で、後に教員となったルイ・ブライユが、軍の夜間暗号用に試作された12点点字を改良し、縦3点、横2点を1マスとした6点点字を考案しました。これが1854年にフランスで公式文字と認められました。

日本では、1890年にブライユの点字をもとに石川倉次が改良した点字が採用され、現在に至っています。



**Q14： 点字の便利なところ、不便なところは何ですか？**

それぞれ次のようなものがあります。

**◎便利なところ（長所）：**

- 1マス分の文字が指先に収まるので、一つの文字を読むために手を大きく動かす必要がない。
- 読む方向が「左から右へ、上から下へ、前から後ろへ」と決まっているので、読むときの手の動きがあまり複雑にならない。
- 書く動作が「点の位置に手を動かして押し下げる」という形なので、視覚を利用できない状況でも書き間違いが少なくなる。

**◎不便なところ（短所）：**

- 点やマスの大きさが決まっているため、文字の大きさを意味や雰囲気を変えるという方法は使えない。
- 読みの方向が「左から右へ、上から下へ、前から後ろへ」と決まっているため、この読み方で意味が通じるように書かなければならない。読んでいる途中で別のページの内容を確認しなければならないような書き方は基本的に認められない。
- 図はそのまま表現できないので、必要に応じて「その図に何が描かれているか」などを言葉で書き表す必要がある。また、表などで大きなものや複雑なもののように元の形を思い描くのが難しいものも言葉に直して書く必要がある。

- 基本的にコピーの手段はない。同じものが必要なときは「同じものを改めて作る」という形になる。
- 基本的に修正手段はない。修正する場合は「修正したい箇所のあるページを改めて作り直す」ことになる。

また、日本点字特有の不便なところとして次のものがあります。

- 基本的にカナだけで書かれるため、漢字カナ混じり文である墨字文と比べると文字や紙の量が多くなる。また同音異義語（「橋」と「箸」など）は、区別が困難な場合は元の漢字の意味などを書き加える必要がある。
- 文に意味などの区切りにあわせた空白を入れる必要がある（これを「分かち書き」と呼ぶ。英語などは墨字文ですでに分かち書きがされている）。

**Q15： 視覚障害者が点字を覚えるのには、  
どのくらいの期間が必要ですか？**

点字を覚えるまでの期間は、人によってさまざまです。

点字を読むためには、次の二つを訓練する必要があります。

- 1.点字の形を覚える
- 2.指先で点字の形を判断できるようにする

さらに、点字を書くためには次の二つの訓練も行う必要があります。

1.点字を打つ道具の使い方を覚える

2.点字を書くための決まりを覚える

これらを覚えるための時間は、指先の感覚の鋭さ、理解する力、器用さなどによって違ってきます。また、「ここまでできたら点字を覚えたことにする」という規則があるわけではありません。そのため、一概に「これだけの期間があれば点字を覚えられる」ということはいえません。

なお、視覚障害者が全員点字を読めるわけではありません。また、読むスピードも人によって違います。

### Q16： どのような場所に行けば点字を見ることが出来ますか？

次のようなところで見ることができるとおもわれます。

#### ◎駅・デパートなどの公共施設

エレベータや案内板に付けられていることが多いです。

#### ◎薬屋

いくつかの薬の箱に、透明な樹脂で点字が付けられています。

## ◎酒屋・コンビニエンスストア

缶入りのお酒のふたに点字が付けられています。

**Q17: 点字図書館では、視覚障害者のために**

**どんな工夫をしていますか？**

点字図書館は、「図書館」といっても、県や市町村で運営している図書館（公共図書館）や学校の図書館とは性質が違っているところがあります。

「図書館」といえば、広いスペースの閲覧室や何重にも並んだ本棚があり、利用者がそこに行って本を探して読む、というのを想像されると思います。

ですが、点字図書館は茨城県内に1ヶ所しかないことと、視覚障害者に移動が難しい人が多いことから、「視覚障害者が直接図書館に来て本を探して読む」ということはほとんどありません。本を借りる時は電話などで申し込みをして、郵便で図書館と本のやり取りをします。

このような理由で、点字図書館だからといって特に珍しい工夫をしてはいません。音声による誘導装置や点字ブロックなど、公共施設では珍しくない設備だけです。

**Q18： 点字図書館には、どのような本があるのですか？**

書店で売られている本をもとに作られたものがほとんどです。

全国の点字図書館では、実際に売られている墨字の図書を人の手で点字または音声に直しています。これらの作業を受け持っていただくのは、講習や練習を重ねたボランティアの方々です。

点字・録音の本ができあがるまでには、とても時間がかかります。そのため、点字図書館が持っている図書の数は、一般の図書館に比べると非常に少ないのです。

茨城県立点字図書館には、平成17年度末（平成18年3月31日現在）点字図書が約28,000冊、テープ図書が約24,000本、デイジー図書（記録形式を工夫することで、通常のものよりも録音できる時間を長くしたCD）が約3,200枚あります。ただし、点字図書とテープ図書は墨字の本1冊分を記録するのにおよそ4冊（4巻）必要になるため、墨字本の冊数では点字図書が約7,000冊、テープ図書が約6,000冊になります。デイジー図書は墨字の本1冊が1枚に収まるので、そのまま3,200冊となります。

一方、日本で出版される本の冊数は、1年間で約70,000冊になります。点字、テープ、デイジーすべての図書を足しても、日本で1年間に出版される本の4分の1にもなりません。

そのかわり、全国の点字図書館同士でお互いの持っている本を貸し借りしています。このような手段で、利用者が希望する本を、あまりお待たせすることなく提供できるようにしています。

置いてある本の種類では、文学（小説・随筆など）が最も多く利用されるため、それらの割合が多くなっています。また、視覚障害者の仕事の関係で、東洋医学（はり・きゅう・マッサージなど）に関する本が多いのも特徴でしょう。

### Q19： 点字図書には、挿絵などはあるのですか？

挿絵はほとんどありません。ただし、次のような場合は付くこともあります。

#### ◎図や表など、それが無いと意味が通じなくなるもの

何らかの手段で図や表を書くことができるのならば、それを作ります。ただし普通は、読んだ人がもとの図や表を想像できるような言葉で説明します。

#### ◎点字のついた絵本

視覚障害者の親が、晴眼者の子どもに絵本を読み聞かせると

きなどに使います。普通は、絵本の文字の部分に、透明なフィルムに打った点字を貼り付けます。

### ◎さわる絵本

視覚障害者の子どもが、本に貼り付けた凹凸の形をさわってもとの形を想像するものです。

また、弱視者のための「大活字本」では、拡大した絵をつけて理解を助けるものも多くなります。

**Q20： 点字図書館に係るボランティアには、  
どのようなものがありますか？**

Q16でも説明しましたが、図書館の製作にかかわるボランティアとして、点訳ボランティアと音訳ボランティアがあります。

点訳ボランティアは、墨字の本を点字に直す奉仕活動をする人です。

音訳ボランティアは、墨字の本を自分の声でテープに録音する奉仕活動をする人です。また、視覚障害者が希望する文書などを目の前で読み上げる活動もあります。

1冊の本を点訳・音訳するボランティアになるまでには、数多くの講習を受ける必要があります。また、ボランティアになった後も、読み間違いなどをしないよう勉強し続ける必要があります。

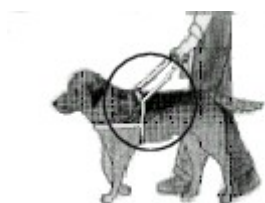
## Q21： 盲導犬とは、どんな犬ですか？

盲導犬は、視覚障害者を安全に誘導するために訓練された犬です。平成18年度末現在、全国で965頭、茨城県内には19頭います。

ほとんどの場合、盲導犬は道順を覚えているのではなく、障害物をよけたり危険な場所の手前で止まったりしているだけです。視覚障害者は「なぜよけたのか」「なぜ止まったのか」を判断し、時には盲導犬に指示を与える必要もあります。

以前はホテルや食堂などの公共施設に盲導犬が入るのを拒否されたこともありましたが、平成14年に定められた『身体障害者補助犬法』という法律により、特別な理由がない限りそれらの施設に盲導犬が入ることは拒否されないようになりました。

盲導犬は、視覚障害者の目の代わりに働いている犬です。いっしょにいる視覚障害者の許可なしに触ったり、えさをあげたりしないでください。特に胴体にハーネス（盲導犬を操縦する道具）を付けているときは「工作中」ですから、盲導犬にかまったりしないでください。



マルで囲んだ部分にある金具が「ハーネス」です。



**Q22： 盲導犬は、どんな犬が、****どこでどのように訓練されるのですか？**

盲導犬に向いているのは「おとなしくて賢く、人を誘導するのに十分な体格をしている」犬です。日本では主に「ラブラドル・レトリバー」や「ゴールデン・レトリバー」が盲導犬として育てられます。

盲導犬はほとんどの場合、盲導犬訓練センターで盲導犬に適している血統をもつ親犬同士を掛け合わせて子犬を作ります。生まれた子犬は、生後45日たつと「パピーウォーカー」と呼ばれる飼育ボランティアの家庭に預けられます。そして1歳になると訓練センターに戻り、本格的な訓練を受けます。

適性が認められた犬は、視覚障害者との共同訓練に入ります。1ヶ月ほどの共同訓練が終了すると、いっしょに視覚障害者の自宅へ帰り、仕事が始まります。

訓練センターは、日本全国で10ヶ所しかありません。茨城県の近くでは、栃木県の宇都宮市、東京都の練馬区、および神奈川県横浜市にあります。